



平成 21 年 4 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アパマンショップホールディングス
(コード番号8889 大証ヘラクレス)
代 表 者 代表取締役社長 大村 浩次
本 社 所 在 東京都中央区京橋一丁目1番5号
問 合 せ 先 常務取締役 石川 雅浩
T E L 0 3 - 3 2 3 1 - 8 0 2 0

(訂正)「当社子会社(株式会社AS-SZKi)の特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」の一部訂正について

平成21年4月8日に開示いたしました「当社子会社(株式会社AS-SZKi)の特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」に別添した資料について、当該子会社が開示した資料と異なった資料が添付されておりましたので、お詫びするとともに訂正させていただきます。

以 上

<別添資料>

株式会社AS-SZKiの開示資料

「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」

各 位

会 社 名 株式会社AS-SZKi
 代 表 者 名 代表取締役社長 千葉 慎二
 (JASDAQ コード 1995)
 問 い 合 せ 先 専務取締役 木下 義治
 電 話 番 号 055-971-3040

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 21 年 3 月期末決算において下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせいたしますとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 11 月 26 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

不動産市況の低迷に伴う不動産鑑定評価額の下落の影響を受け、当社の連結子会社が所有するたな卸資産の売却可能価格を見直し、当社の連結子会社に対する貸付金について、回収可能性を検討した結果、前回予想の見込み額より 240 百万円新たに計上し合計で貸倒引当金 540 百万円を計上する見込みであります。

2. 平成 21 年 3 月期 通期連結業績予想の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	9,500	△1,100	△1,470	△2,500	△49円40銭
今回予想(B)	7,890	△1,890	△2,250	△3,290	△65円01銭
増減額(B-A)	△1,610	△790	△780	△790	—
増減率(%)	△16.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 20 年 3 月期)	13,977	2,621	2,351	2,091	46円45銭

修正理由

平成 21 年 3 月期通期連結業績予想の修正

- ① 連結売上高につきましては、主として下記3.平成 21 年 3 月期通期個別業績予想の修正理由①による売上高の減少(△1,380 百万円)と昨今の急激な景気悪化の影響をうけ、連結子会社の五朋建設(株)の建築受注の不調に伴う当期売上高の減少(△265 百万円)により、前回予想 9,500 百万円が 1,610 百万円減少し 7,890 百万円となる見込みであります。
- ② 連結営業損益につきましては、主として下記3.平成 21 年 3 月期通期個別業績予想の修正理由②営業損益の修正理由に加え、連結子会社の所有するたな卸資産について「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき、たな卸資産の評価を見直したことにより売上原価で処理すべき評価損 300 百万円を計上する見込みとなり売上総利益が減少し、前回予想 1,100 百万円の損失が 790 百万円増大し 1,890 百万円の損失となる見込みであります。なお、上記連結子会社の五朋建設(株)の売上高の減少による売上総利益に与える影響は少額であります。
- ③ 連結経常損益につきましては、主として上記②の理由により営業損失が増大し、前回予想 1,470 百万円の損失が 780 百万円増大し 2,250 百万円の損失となる見込みであります。
- ④ 連結当期純損益につきましては、主として上記②及び③の理由により前回予想 2,500 百万円の損失が 790 百万円増大し 3,290 百万円の損失となる見込みであります。

3. 平成 21 年3月期 通期個別業績予想の修正(平成 20 年4月1日～平成 21 年3月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	6,550	△1,010	△900	△1,930	△38円13銭
今回予想(B)	5,170	△1,510	△1,390	△2,600	△51円37銭
増減額(B-A)	△1,380	△500	△490	△670	—
増減率(%)	△21.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 20 年3月期)	7,992	2,076	2,116	1,906	42円34銭

修正理由

平成 21 年3月期通期個別業績予想の修正

- ① 売上高につきましては、主として開発・PI(プリンシパル・インベストメント)事業において、販売用不動産の売却を見込んでいた物件が、不動産市況の低迷等の影響もあり売買条件が折り合わず、当期中に売却ができなかったことによる減少、及びアセットマネジメント事業においても見込んでいた新規案件が関係者との条件等の調整が進まず、翌期以降にずれ込んだことによるアセットマネジメント報酬の減少と合わせて 1,220 百万円減少したこと等により、前回予想 6,550 百万円が 1,380 百万円減少し 5,170 百万円となる見込みであります。
- ② 営業損益につきましては、主に上記①の売上高の減少による売上総利益の減少 400 百万円及び「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき、たな卸資産の評価を見直したことにより売上原価で処理すべき評価損 126 百万円を計上する見込みとなり売上総利益が減少し、前回予想 1,010 百万円の損失が 500 百万円増大し 1,510 百万円の損失となる見込みであります。
- ③ 経常損益につきましては、主として上記②の理由のとおり、営業損失の増大により前回予想 900 百万円の損失が 490 百万円増大し 1,390 百万円の損失となる見込みであります。
- ④ 当期純損益につきましては、上記②の理由のほか上記「1.特別損失の発生及びその内容」に記載のとおり当社の連結子会社に対する貸付金の回収可能性の見直しによる貸倒引当金が前回予想の見込み額を 240 百万円上回る 540 百万円を計上する見込みとなり、前回予想 1,930 百万円の損失が 670 百万円増大し 2,600 百万円の損失となる見込みであります。なお、この貸倒引当金の計上による連結業績に与える影響はございません。

(注) 上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報をもとにした仮定を前提としており、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上